日本化学会第94春季年会（2014）講演申込要項

第 94 春季年会実行委員会

主　催	公益社団法人日本化学会
会　期	2014 年 3 月 27 日（木）〜 30 日（日）
会　場	名古屋大学東山キャンパス（名古屋市千種区不老町）
実行委員長	渡辺芳人（名古屋大学大学院理学研究科・教授）
内　容	アカデミック・プログラム（AP：一般研究発表）　（口頭・ポスター） アドバンスト・テクノロジー・プログラム（ATP）（ATP セッション・ATP ポスター・ATP 交流会） 外国人の特別講演・受賞講演・特別企画・展示会・表彰式・懇親会・市民公開講座 中長期テーマ・アジア国際シンポジウム・イブニングセッション・若い世代の特別講演・その他委員会企画
重要な日程	講演申込期間　2013 年 11 月 14 日〜 11 月 29 日　※訂正は 12 月 2 日（月）18 時まで 予稿原稿提出期間　2014 年 1 月 7 日〜 1 月 22 日 参加予約期間　2014 年 1 月 23 日〜 2 月 26 日　詳細は本誌 1 月号 プログラム公開　2014 年 2 月 21 日（予定） 予稿集発行日　2014 年 3 月 12 日（予定）
問合先	日本化学会　企画部　年会係 〒 101-8307 東京都千代田区神田駿河台 1-5 電話（03）3292-6163　E-mail: nenkai@chemistry.or.jp URL: http://www.csj.jp/nenkai/

標記年会の研究発表を，以下のように募集します。講演申込要項は毎回見直しが行われ変更されていますので，必ずご確認下さい。本年会における留意点は以下のとおりです。

■実行委員会では，年会の国際化推進の議論を踏まえて英語の発表を増やすべく，英語での口頭講演（特に AP の口頭 B 講演）と英語ポスターの作成を強く推奨し，これに基づいてプログラム編成を行います。

■今年度より，ユーザー登録後にログインが可能となる「年会マイページ」で，参加者自身の状況（講演申込，予稿原稿投稿，参加登録など）を確認できるようにします。講演申込時あるいは参加登録時に自動的にユーザー登録され，申込み完了後に，ログインに必要なユーザー ID 及びパスワードが E-mail アドレスに通知されます。詳しくは，春季年会ウェブサイト（http://www.csj.jp/nenkai/）をご覧下さい。

1 講演申込について

1.1 申込期間

2013 年 11 月 14 日〜 11 月 29 日

※講演申込完了時に発行されるユーザー ID とパスワードを使用して，年会マイページにて申込内容を訂正することができます（訂正期間：2013 年 11 月 14 日〜 12 月 2 日 18 時）。

1.2 申込方法

春季年会ウェブサイト（http://www.csj.jp/nenkai/）上の講演申込フォームからお申し込み下さい。

講演申込フォームが使用できない場合は，お早めに事務局にお問い合わせ下さい。締切間際になると対応できかねる場合もございます。

1.3 申込完了の確認

講演申込が完了すると，年会マイページへログインするためのユーザー ID 及びパスワードが発行されます。また，申込内容を申込時に入力した E-mail アドレスに通知します。申込者は，講演申込が完了していることを年会マイページにて必ずご確認下さい。年会マイページにログインできない場合（講演申込の確認ができない場合）は，12 月 2 日までに必ず企画部　年会係まで E-mail にてお問い合わせ下さい。期限後のお問合せには対応できませんのでご注意下さい。

1.4 採否の決定

申込みいただいた講演の採否及びプログラム編成（“口頭（A 講演・B 講演）/ポスター・ATP ポスター”の発表形式，発表部門，日時など）は，第 94 春季年会実行委員会に一任とします（希望と異なる場合もあります）。12 月上旬に各部門別にプログラム編成を行いますので，申込者はこの時期，プログラム編成委員からの問合せになるべく対応できるようご配慮下さい。

1.5 講演番号の通知

12 月下旬に申込時に入力した E-mail アドレス宛に通知します。詳細は年会マイページにてご確認下さい。

1.6 講演申込の取消

講演申込後に発表を取り消すと，プログラム編成に支障をきたすだけでなく，前後の講演者に対しても迷惑がかかります。社内審査がある場合は早めに手続きを開始し，必ず発表許可を取ってからお申し込み下さい。また学生が申込者の場合は，講演申込内容に関して指導教員の確認を受けてからお申し込み下さい。理由の如何にかかわらず，講演予稿原稿を提出した後の差し替え，取り下げは認められ

ません。

1.7 講演申込内容の公表

採択された講演申込内容は，連絡先に関する部分を除き，講演プログラムやデータベースの形で下記により公開・無償配布します。なお，公開したプログラムに変更が生じた場合は春季年会ウェブサイトにて告知します。

・講演プログラム	2014 年 2 月下旬
・日本化学会研究者データベース	会期終了後
・JST JDream Ⅲ ※予定	会期終了後

1.8 特許

講演予稿集をもって特許における公知日とされる方は，発行日以降権利が 6 ヵ月留保されることとなります。特許出願の際に必要な発表証明については，下記 URL をご参照下さい。http://www.csj.jp/news/happyo-syomei.html

インターネットでの公開内容も研究内容の公知に当たります。本年会での講演申込内容の公開時期については，前項を確認して下さい。

1.9 著作権

講演予稿集に記載された内容に関する著作権は，日本化学会に帰属するものとします。したがって本会が必要と認めたときは転載し，また外部からの引用の申請があったときは本会において検討の上，許可することとします。

1.10 各種講演賞

本年会では「学生講演賞」・「優秀講演賞（学術）」・「優秀講演賞（産業）」の 3 種類の講演賞を設けて優れた講演を顕彰します。各講演賞の対象者・発表形式・対象部門等は以下のとおりです。なお優秀講演賞（産業）は，昨季と同様，ATP ポスターで発表・審査を行い，後述の 3.2 アドバンスト・テクノロジー・プログラム（ATP）に記載された産業適用分野で募集します。詳細は”産学交流委員会から優秀講演賞（産業）の案内”（本誌 851 ページ）を参照し，奮ってご応募下さい。

<u>学生講演賞</u>

対象者	博士後期課程の学生会員
発表形式	口頭 B 講演
対象部門	アカデミック・プログラムの全部門
審査申込	上記条件を満たす講演すべてが対象となるため申込の必要はありません。
授与委員会	第 94 春季年会（2014）実行委員会

<u>優秀講演賞（学術）</u>

対象者	平成 26 年 4 月 1 日時点で満 36 歳に達していない正会員
発表形式	口頭 B 講演
対象部門	アカデミック・プログラムの全部門
審査申込	講演申込時に審査を希望する旨を申請して下さい。
授与委員会	第 94 春季年会（2014）実行委員会

<u>優秀講演賞（産業）</u>

対象者	平成 26 年 4 月 1 日時点で満 40 歳に達していない正会員及び学生会員
発表形式	ATP ポスター
対象部門	アカデミック・プログラムの全部門，ただし審査分野は後述の 3.2 アドバンスト・テクノロジー・プログラム（ATP）に記載された P1 ～ P7 の産業適用分野。※ AP の口頭 A 講演や口頭 B 講演と同様の内容で，産業適用分野を指定して申し込みすることも可能です。
審査申込	講演申込時に審査分野（P1 ～ P7）を明記して，審査を希望する旨を申請して下さい。なお，定数に達した場合は，申込みを締め切る可能性がありますことをご了承下さい。
授与委員会	産学交流委員会

2 講演について

2.1 講演内容と講演者の条件

アカデミック・プログラム（AP）

講演内容は未発表のものに限ります。また，講演申込者及び講演者（登壇者）は，講演申込時点において日本化学会の個人会員に限ります（講演申込は，会員 1 人につき 1 件です）。

アドバンスト・テクノロジー・プログラム（ATP）

ATP の一般発表はすべて ATP ポスターで実施します。昨季までと同様，講演内容は未発表のものに限定せず，既発表のものや特許化・製品化済みの発表も可能です。また，AP の口頭 A 講演，口頭 B 講演と同様の内容で ATP ポスターへ申し込みすることも可能です。活発なディスカッションのために，可能な限り具体的な化合物名や構造を明示して下さい。講演申込者及び講演者（登壇者）は日本化学会の個人会員に限りませんが，優秀講演賞（産業）の審査を希望する方は会員である必要があります。

※未入会の方は講演申込の前に日本化学会ウェブサイト（http://www.csj.jp/）より入会手続を完了させて下さい。

※連名者（共著者）は日本化学会会員に限りません。

※講演申込者・講演者（登壇者）・連名者（共著者）の如何にかかわらず本年会に参加される方は，全員参加登録が必要です。

2.2 発表形式と講演時間

アカデミック・プログラム（AP）

口頭 A 講演	10 分（講演 7 分・討論 2 分・交代 1 分）
口頭 B 講演*1	20 分（講演 15 分・討論 4 分・交代 1 分）
ポスター	45 分

アドバンスト・テクノロジー・プログラム（ATP）

ATP ポスター*2　90 分

*1 口頭 B 講演の発表資格は正会員もしくは博士後期課程の学生会員とし，<u>特に英語での発表を推奨します。</u>

*2 AP の口頭 A 講演，口頭 B 講演と同様の内容で ATP ポスターへ申込み可能です。

2.3 発表言語

英語もしくは日本語とします。※<u>講演申込時，発表言語に英語を選択した場合は，予稿原稿を英語で作成して下さい。</u>

2.4 発表用スライド（資料）及びポスター

<u>プレゼンテーション時に使用するスライド（資料）及び</u>

ポスターは可能な限り英語で作成して下さい。

2.5 発表機材

口頭講演

すべての会場に液晶プロジェクター・RGB ケーブル・PC 切替器を用意します。講演者は PC を持参して下さい。またトラブル対策として，バックアップファイル（ウィルスのチェック及び OS 互換性に関してチェック済みであること）を USB メモリでご用意下さい。

ポスター

ポスターボード（縦 210 cm ×横 90 cm〔予定〕）と画鋲を用意します。

3 講演申込分類

3.1 アカデミック・プログラム（AP）

講演申込分類は毎年見直しを行っています。講演申込分類の誤りはプログラム編成ひいては会期中の運営にも多大な支障をきたしますので，必ずご確認下さい。

1. 化学教育・化学史

A. 初等中等教育（実践例など），B. 大学教育（実践例など），C. 化学史・化学技術史，D. 化学入試問題の評価，E. その他

2. 物理化学―構造

A. 気相高分解能分光，B. 赤外・ラマン分光，C. 電子スペクトル・電子分光・電子状態，D. 磁気共鳴，E. 結晶構造，F. 表面・界面，G. その他

3. 物理化学―物性

A. 気体，B. 液体・溶液，C. 液晶・ガラス，D. 相平衡・相転移，E. 表面・薄膜・ナノ物性，F. クラスター・ナノチューブ，G. 電導体，H. 磁性体，I. 光物性・その他

4. 物理化学―反応

A. 気相反応（機構・速度・ダイナミクス），B. クラスター，C. 光化学反応（液相・固相・表面・膜），D. スピン化学・磁場効果，E. 電子移動・エネルギー移動，F. 放射線化学，G. 電気化学・界面化学，H. 非平衡系反応，I. その他

5. 無機化学

A. 無機化合物の合成・反応，B. 無機化合物の構造・物性，C. 固体化学，D. 溶液化学，E. 放射化学・核化学・f ブロック元素，F. ポリオキソメタレート，G. クラスター化合物・包接化合物，H. 多孔性化合物，I. 層状化合物・ナノシート・無機薄膜，J. その他

6. 錯体化学・有機金属化学（主たる金属元素記号を 1 つ記入のこと）

A. 錯体化学（1. 合成，2. 構造，3. 反応，4. 物性，5. その他），B. 有機金属化学（1. 合成，2. 構造，3. 反応，4. 触媒，5. 有機合成，6. その他），C. 生物無機化学，D. 材料関連化学，E. その他

7. 有機化学（主として物理有機化学的なもの）

A. 構造と物性（1. 分子構造と立体化学，2. 新 π 共役系分子の合成と物性，3. 分子性導体・磁性体，4. 分子性半導体，5. 光分子物性，6. 分子認識，7. 超分子化学，8. ナノ構造体の構築と物性，9. その他），B. 反応機構（1. 反応性中間体，2. イオン反応・加溶媒分解など，3. ラジカル・電子移動・光化学反応など，4. 理論計算，5. その他），C. その他

8. 有機化学−反応と合成（一般的反応と合成に関する研究）

A. 脂肪族・脂環式化合物，B. 芳香族化合物，C. 複素環化合物，D. ヘテロ原子化合物，E. 有機金属化合物（主たる金属元素記号を 1 つ記入のこと），F. 有機光化学，G. 有機電子移動化学，H. ハイスループット合成（1. コンビケム・固相合成，2. 新反応場（フロー法，マイクロリアクター，マイクロ波，固定化法，反応媒体），3. 反応集積化，4. その他），I. その他

9. 天然物化学（構造，合成，生合成など）

A. 脂肪酸関連化合物，ポリフェノール（ポリ環状エーテル，マクロリド，エンジイン系化合物も含む），B. テルペン，ステロイド，C. アルカロイド，D. 糖，E. アミノ酸，ペプチド，F. コンビケム・固相合成，G. ケミカルバイオロジー（生物活性物質），H. その他　※ G. ケミカルバイオロジーは，10. 生体機能関連化学・バイオテクノロジーと同一会場でプログラムが組まれます（予定）。

10. 生体機能関連化学・バイオテクノロジー

A. 機能性低分子・分子認識（錯体，ポルフィリン，補酵素，イオン，ラジカルなど），B. 核酸（モデル化合物を含む），C. タンパク質・酵素（タンパク質工学，酵素工学，ペプチド，モデル化合物を含む），D. 糖（糖鎖工学，モデル化合物を含む），E. 脂質・生体膜（モデル化合物，モデル膜を含む），F. 細胞（バイオプロセス，細胞工学，代謝工学，培養工学を含む），G. 生命情報（ゲノム，遺伝情報発現など），H. 環境バイオテクノロジー・食品バイオテクノロジー・バイオセンサー，I. メディカルバイオテクノロジー，J. 生体触媒反応，K. ケミカルバイオロジー（作用機構，バイオイメージング，ラベル化，機能制御など），L. その他　※ K. ケミカルバイオロジーは，9. 天然物化学と同一会場でプログラムが組まれます（予定）。

11. 分析化学

A. 原子・分子スペクトル分析，B. レーザー分光分析（フォトサーマル，蛍光，時間分解，顕微分光など），C. X 線分析，D. センサー，E. 電気化学分析，F. 質量分析，G. フローインジェクション分析（FIA），H. 液体クロマトグラフィー（LC），I. ガスクロマトグラフィー（GC），J. 電気泳動分析，K. マイクロ・ナノ分析（マイクロチップ・ウェル，超微粒子，単一分子検出など），L. 分離・抽出・分析試薬の設計，M. プローブ顕微鏡，N. 界面分析，O. 標準試料・標準化，P. ケモメトリックス，データ解析法，Q. 環境・地球化学関連分析，R. 臨床・医療・法医学分析，S. バイオ分析（核酸，遺伝子，タンパク質，細胞，イメージングなど），T. 食品・医薬品分析，U. 材料分析・材料解析（表面分析を含む），V. 有機・無機・金属・複合材料分析など，W. その他

12. 高分子

A. 高分子合成（1. ラジカル，2. イオン，3. 配位触媒，4. 開環，5. 重縮合・重付加，6. ブロック・グラフト共重合・特殊構造高分子，7. その他），B. 高分子反応，C. 高

分子構造･物性，D. 機能性高分子（1. 高分子触媒，2. 電気・電子・磁性，3. 光，4. 情報・記録，5. バイオメディカル，6. 膜・分離，7. ゲル，8. その他），E. 高性能高分子，F. 生体高分子，G. 高分子工業，H. その他

13. 触媒

A. 表面・吸着，B. 構造・物性・計算，C. 調製方法，D. 水素化・脱水素，E. 分解・改質・脱硫等，F. 酸化，G. 酸・塩基触媒，H. ゼオライト，I. メソポーラス物質，J. 環境触媒，K. 光触媒（1. 可視光・太陽光の利用，2. その他一般），L. 錯体・クラスター，M. 有機合成・重合，N. その他

14. コロイド・界面化学

A. 微粒子分散系（1. サスペンション，2. 微粒子・ナノ粒子，3. 高分子コロイド，4. 界面電気現象，5. レオロジー，6. その他），B. 分子集合体（1. ミセル，2. 高分子溶液，3. 超分子・高次分子集合体，4. 液晶・ゲル，5. エマルション，6. その他），C. 組織化膜（1. 単分子膜･LB膜，2. 自己組織化膜，3. 二分子膜（ベシクル・リポソーム等），4. 界面物性（気－液，液－液），5. その他），D. 固体表面・界面（1. 表面構造と物性・機能，2. 吸着と触媒，3. 表面力・トライボロジー，4. マイクロファブリケーションとナノテクノロジー，5. その他），E. 新領域，F. 国際セッション（口頭講演（英語）のみ募集）

15. 材料化学

A. 無機材料，B. 有機材料（高分子材料を含む），C. 複合材料，D. 炭素材料，E. ガラス･アモルファス材料，F. 低次元材料（薄膜，ナノ粒子など），G. その他

16. 材料の機能

A. 生体機能（1. 生体適合，2. DDS，3. リポソーム，4. 酵素，5. その他），B. 光化学機能（1. フォトクロミズム，2. 光化学増幅，3. 光硬化・分解，4. 無機-有機複合系，5. その他），C. エネルギー変換機能（1. 化学的変換，2. その他），D. 電子･磁気機能（1. 超伝導，2. 導電，3. 半導，4. 絶縁，5. 磁気，6. 光磁気，7. その他），E. 光学機能（1. 偏光，2. 変調・増幅，3. 非線形，4. その他），F. 分離機能（1. 輸送，2. 吸着，3. 膜，4. イオン交換，5. 包接，6. 光学分割，7. その他），G. その他

17. 材料の応用

A. センサー（1. 温度・湿度，2. 物理量（圧力・速度など），3. 成分，4. バイオセンサ，5. その他），B. 記録・記憶（1. カラーハードコピー，2. 写真，3. 磁気記録，4. 光記録，5. 印刷，6. その他），C. 表示（1. CRT，2. 液晶，3. プラズマ，4. EC，5. EL，6. その他），D. 電子部品関連（1. 半導体，2. レジスト，3. 封止，4. 接続・実装，5. その他），E. 光学部材（1. レンズ，2. ファイバー，3. 非線形光学部材，4. その他），F. 電池・エネルギー（1. 一次電池，2. 二次電池，3. 燃料電池，4. その他電池，5. 水素吸蔵合金，6. その他），G. 分離部材（1. 吸水ゲル，2. イオン交換，3. 選択透過膜，4. その他），H. 染顔料・塗料・インキ（1. 光硬化，2. キュアリング，3. 機能性色素，4. 分散，5. 光造型，6. その他），I. 接着剤･界面活性剤（1. ナノ粒子，2. 自己組織化膜，3. 表面・界面，4. 接着・粘着，5. その他），J. ライフサイエンス，K. 医薬・農薬，L. 環境材料（1. リサイクル，2. エコロジー，3. 環境調和，4. 劣化，5. 安定化，6. その他），M. 高性能材料（1. ハイブリッド，2. アロイ，3. ブレンド，4. ゾルゲル，5. 耐熱難燃性材料，6. 高強度高弾性材料，7. その他），N. その他

18. 資源利用化学

A. 石油（1. 石油化学，2. 石油精製，3. アップグレーディング，4. 転換・分解，5. 反応・触媒，6. その他），B. 石炭（1. 石炭化学，2. 石炭液化，3. 石炭ガス化，4. コールタール化学，5. 炭素材料，6. 分離・利用，7. 反応・触媒，8. その他），C. ガス化学（1. 天然ガス化学，2. 合成ガス化学，3. 反応・触媒，4. その他），D. 環境資源化学（1. CO_2 捕捉，2. CO_2 転換，3. 反応・触媒，4. その他），E. 再生可能資源化学（1. バイオマス，2. マリーンバイオ，3. 回収･再利用，4. 廃プラスチックの再資源化，5. その他），F. 海洋資源化学（1. 海水溶存資源，2. 海底資源，3. その他），G. 鉱物資源化学（1. 金属資源，2. 非金属資源，3. その他），H. 資源開発･管理（1. 分布調査，2. 保護，3. 利用，4. 回収，5. 省資源，6. その他），I. その他

19. エネルギーとその関連化学

A. エネルギー変換（1. 燃料電池，2. 太陽電池，3. 電気化学プロセス，4. 光電気化学，5. その他），B. エネルギー貯蔵（1. キャパシタ，2. 二次電池，3. 水素貯蔵，4. 相変化・構造変化，5. その他），C. エネルギーの高度利用（1. 光触媒，2. 省エネルギー素材，3. その他），D. 電気化学（1. 腐食防食，2. 固体電解質，3. 溶融塩，4. 電解合成，5. その他），E. 光化学（1. 光誘起電子移動，2. 励起状態と緩和過程，3. 光合成関連化学，4. レーザー誘起反応，5. 有機光化学，6. その他），F. 放射線化学・核化学・放電・プラズマ，G. 高温化学・燃焼・火薬，H. 超音波化学，I. その他

20. 環境・グリーンケミストリー，地球・宇宙化学

A. 地球化学･宇宙化学，B. 大気環境化学（1. 環境動態，2. 環境保全技術，3. 環境分析，4. その他），C. 水質環境化学（1.～4. は上と同じ），D. 廃棄物・土壌環境化学（1.～4. は上と同じ），E. 安全化学，F. グリーンケミストリー，G. 地球環境への材料の応用（1. 生分解･光分解，2. リサイクル，3. 海洋・砂漠・オゾン，4. その他），H. 環境調和，I. 光触媒（1. 酸化還元反応，2. 親水化反応，3. 水分解，4. 環境改善，5. その他），J. その他

21. 理論化学・情報化学・計算化学

A. 電子状態，B. 化学反応，C. ダイナミクス，D. バイオ，E. 材料，F. シミュレーション，G. 数理化学，H. 化学情報，I. その他

22. 有機結晶

A. 構造と物性，B. 分子集合系構築，C. 分子認識，D. 動的挙動，E. 分子集合体中の反応，F. 低秩序分子集合体，G. その他

3.2 アドバンスト・テクノロジー・プログラム（ATP）

下記 P1 ～ P7 の産業適用分野で ATP ポスターを募集し

ます。実施日は3月27日を予定しています。なおオーラルセッションの内容については，後述の**9.1 アドバンスト・テクノロジー・プログラム（ATP）**をご覧下さい。

P1. エネルギー
　例；創エネ，蓄エネ，送エネ，節エネ，等々

P2. 資源・環境・GSC
　例；炭素資源，レアメタル，化学プロセス，触媒，等々

P3. 食糧・水
　例；バイオ品種改良，農薬，肥料，水処理，等々

P4. 運輸・住宅
　例；自動車素材，航空用素材，建築素材，構造材，等々

P5. 通信・エレクトロニクス
　例；プリンテッドエレクトロニクス，有機エレクトロニクス，等々

P6. 医療・ヘルスケア
　例；創薬，診断薬，人工臓器，再生医療，等々

P7. 生活資材
　例；繊維，紙，包装材，トイレタリー，化粧品，等々

4 講演予稿原稿

4.1 提出期間

2014年1月7日～1月22日

締切期日までに講演予稿原稿を提出しない場合は，講演を中止したものとしますのでご注意下さい。

4.2 提出方法

講演予稿原稿をPDFファイルで作成の上，年会マイページへログイン後，予稿原稿を提出して下さい。※講演申込時，発表言語に英語を選択した場合は，予稿原稿を英語で作成して下さい。

フォームが使用できない場合は，お早めに事務局にお問い合わせ下さい。締切間際になると対応できかねる場合もございます。

提出期間後の原稿の訂正はできません。また，提出された原稿は返却しませんので，あらかじめご了承下さい。

4.3 作成方法

春季年会ウェブサイト（http://www.csj.jp/nenkai/）上で公開するテンプレート（雛型）を使って，PDFファイルを作成して下さい。

■発表言語（英語）の場合：すべて英語で作成して下さい。

■発表言語（日本語）の場合：講演予稿原稿には，和文・英文の演題・所属・発表者氏名及び和文本文に加えて，英文アブストラクト及び英文キーワードを入れて下さい。講演予稿集はモノクロで印刷され，1講演あたりのサイズはA4判の1/4です。図表・写真等を入れる場合には，この点を考慮して下さい。詳細は，春季年会ウェブサイト（http://www.csj.jp/nenkai/）上の，「**予稿原稿作成要項**」をご参照下さい。

5 講演予稿集

5.1 発行日

2014年3月12日（予定）

5.2 発行形式

形式	内容
DVD	参加登録費に含みます（入会準備学部学生は除く）。
冊子	4分冊での発行を予定。収録内容は次項を参照下さい。参加登録費には含まれないので別途申込が必要です。
WEB	参加予約申込をし，期間内にお支払をされた方のみ春季年会ウェブサイトにて閲覧可能です。
USB	内容はDVDと同様です。予約のみ受付ます。参加登録費に含まれるDVDを＋3,000円でUSBに変更も可能です。

5.3 冊子体の収録内容

分冊	収録内容	価格
Ⅰ分冊	アドバンスト・テクノロジー・プログラム（ATP），学会賞，特別講演，特別企画，市民公開講座	2,500円
Ⅱ分冊	1. 化学教育・化学史，2～4. 物理化学，5. 無機化学，6. 錯体化学・有機金属化学，11. 分析化学，13. 触媒，18. 資源利用化学，19. エネルギーとその関連化学，20. 環境・グリーンケミストリー，地球・宇宙化学，21. 理論化学・情報化学・計算化学	3,500円
Ⅲ分冊	10. 生体機能関連化学・バイオテクノロジー，12. 高分子，14. コロイド・界面化学，15. 材料化学，16. 材料の機能，17. 材料の応用，22. 有機結晶	3,500円
Ⅳ分冊	7. 有機化学─物理有機化学，8. 有機化学─反応と合成，9. 天然物化学	3,500円

6 参加登録

講演申込者・講演者（登壇者）・連名者（共著者）の如何にかかわらず本年会に参加される方は，全員参加登録が必要です。本年会の参加登録の概要は以下の予定です。詳細は本誌1月号にてご確認下さい。

6.1 申込期間

2014年1月23日～2月26日

※参加費等の支払い締切日は2014年2月26日です。

6.2 申込方法

■講演申込してユーザー登録済の場合：年会マイページへログインして，トップ画面のメニュー「参加登録」よりお申し込み下さい。

■ユーザー登録なしの場合：春季年会ウェブサイト（http://www.csj.jp/nenkai/）上の参加予約申込フォームからお申し込み下さい。申込時に自動的にユーザー登録され，申込み完了後に，ログインに必要なユーザーID及びパスワードがE-mailアドレスに通知されます。

6.3 参加登録費

参加登録費は以下の表のとおりで，いずれも講演予稿集DVD-ROMが含まれます（入会準備学部学生を除く）。

なお，講演予稿集（冊子），懇親会参加をご希望の場合に

は別途費用が発生します。

会員区分	予約	当日	課税区分
正会員	12,000円	14,500円	不課税
正会員割引*1	9,500円	9,500円	〃
学生会員	4,000円	5,500円	〃
学生会員割引*2	3,500円	3,500円	〃
教育会員	5,000円	6,500円	〃
非会員	24,000円	25,500円	課税
入会準備学部学生*3	−	2,000円	〃

*1 満60歳以上で定職に就いていない方（通称シニア会員）
*2 学部3年以内の方（専攻科1年以下の高専生を含む）（通称：ジュニア会員）
*3 研究発表を行わない非会員（未入会）の大学の学部学生及び高等専門学校の学生が対象。ただし，参加登録費に講演予稿集DVD-ROMは含まない。

6.4 懇親会

日時　2014年3月28日18時～
会場　名古屋大学東山キャンパス内
参加費　予約　一般5,000円，学生2,000円
　当日　一般6,000円，学生2,000円

申込方法

参加登録（6.2申込方法を参照）をされる際に，同時にお申し込み下さい。
※懇親会のみの参加も可能です。

6.5 宿泊・交通について

本年会実行委員会では，宿泊・旅行等の斡旋はしませんので，各自の責任において手配をして下さい。春休みの旅行シーズンでもありますので，早めの準備をお勧めします。

7 付設展示会出展募集

付設展示会への出展受付業務は化学工業日報社に委託しました。出展をご希望されるお客様は下記までお問い合わせ下さい。

7.1 概要

会期　2014年3月27日～29日
会場　名古屋大学東山キャンパス内

出展の対象

汎用科学機器・装置/汎用器具・消耗品/分析機器・装置/物理量・物理測定装置/試験機器・装置/実験室設備/試薬類/情報処理技術/書籍/環境関連機器・装置/CD-ROM/インターネット関連/安全性試験受託・分析リサーチ/耐震・防災・保護・避難/PRTR対策技術/CCS関連ソフト（分子設計支援システム・ポリマー設計支援システム・材料設計支援システム・タンパク工学支援システム・遺伝子工学支援システム・分子構造決定支援システム・合成設計支援システム・データベースシステム・計算化学プログラム・ラボラトリーオートメーション）/コンビナトリアルケミストリー/ナノテクノロジー関連/バイオテクノロジー関連

7.2 お問い合わせ先

(株)化学工業日報社　企画局　担当：平川
〒103-8485 東京都中央区日本橋浜町3-16-8
電話(03)3663-7936　FAX(03)3663-7861
E-mail: h_hirakawa@chemicaldaily.co.jp

8 広告募集

本年会における下記媒体への広告を募集します。詳細情報は，春季年会ウェブサイト（http://www.cs.jp/nenkai/）掲載の要項または下記へお問い合わせ下さい。

8.1 募集広告一覧

媒体名	発行数	配布対象
①プログラム	10,000	参加者全員
②展示会ガイドブック	〃	〃
③講演予稿集（DVD）	〃	〃
④講演予稿集（冊子）	各500	希望者へ有償配布
⑤ウェブサイト・バナー	−	−
⑥手提げ袋	10,000	参加者全員

8.2 お問い合わせ先

②展示会ガイドブック，③講演予稿集（DVD），⑥手提げ袋

(株)化学工業日報社　企画局　担当：平川
〒103-8485 東京都中央区日本橋浜町3-16-8
電話(03)3663-7936　FAX(03)3663-7861
E-mail: h_hirakawa@chemicaldaily.co.jp

①プログラム，④講演予稿集(冊子)，⑤ウェブサイト・バナー

(株)明報社　担当：後藤
〒104-0061 東京都中央区銀座7-12-4 友野本社ビル
電話(03)3546-1337　FAX(03)3546-6306
E-mail: goto@meihosha.co.jp

9 会期中に予定されている企画

本年会において実施予定の①アドバンスト・テクノロジー・プログラム（ATP），②アジア国際シンポジウムをご紹介します。春季年会では例年多数のシンポジウム，行事が企画されます。詳細は本誌1月号に掲載予定です。

9.1 アドバンスト・テクノロジー・プログラム（ATP）

実施日　2014年3月27日～29日

開催趣旨

2005年より実施してきたアドバンスト・テクノロジー・プログラム（ATP）では，産業界が注目する化学技術分野について産学官の研究者が一堂に会して発表・討議することにより，産学官の交流深耕を図ってきました。

10年目を迎える今季のATPでも，この目的に沿って，セッション構成や内容を刷新したATPセッション，優秀講演賞（産業）の審査を行うATPポスター，産業界から学生へ熱いメッセージを発信する博士セミナーなど，産学官の研究者がface-to-faceで実質的な交流ができる多くの場を提供します。

ATPセッション

T1.　資源・次世代エネルギーと環境

A.　太陽光発電の新潮流，B.　燃料電池・水素エネルギー技術，C.　電力貯蔵用蓄電池，D.　エネルギーの高効率利用と環境を支える化学技術，E.　再生可能炭素資源を活用するための有機合成化学

［オーガナイザー］：宮坂　力（桐蔭横浜大・教授），若宮淳志（京大化研・准教授），佐々木一成（九州大学水素エネルギー国際研究センター・センター長），片山　靖（慶大理工・教授），江口浩一（京大院工・教授），山口雅彦（東北大院薬・教授）

［趣旨］：地球温暖化問題，東日本大震災及び原発事故等により，エネルギー及び環境・資源に関わる諸課題解決の重要性や緊急性は増してきています。本セッションでは，下記5つのサブセッションを設定し，これらの諸課題解決に向けて化学が果たせる役割を産学官で共に考える情報交流の場を提供します。多数の方々の参加と熱気溢れる議論を期待しています。

A. 太陽光発電の新潮流：日本における太陽光発電導入量は2013年5月末で8.5 GWに達しており，今後も大きな伸びが予想されているが，市場の要求である更なる高効率化/長寿命化/低コスト化達成に向けた技術開発が急務である。このような中，有機系太陽電池は無機材料とのハイブリッド化など研究成果が近年急速に花開きつつあり，実用化に向けた動きが加速されつつある。本サブセッションでは光電変換に関する最新技術を紹介し，新しい潮流の可能性を探る。

B. 燃料電池・水素エネルギー技術：クリーンエネルギーへの期待から，水素インフラ整備とともに燃料電池車の普及が目前に迫り，急速に採用が進む家庭用燃料電池。これらの燃料電池・水素エネルギー技術の更なる発展のために，将来を担う若手研究者を含め，第一線で活躍する方々を一堂に会して，研究開発でケミストリーに期待されることや次世代技術について議論します。

C. 電力貯蔵用蓄電池：余剰電力を蓄電池に蓄え，必要なときに電力を供給する電力貯蔵用蓄電池は，電力の利用効率を高め，化石燃料の消費量を減らす上で有効であると考えられます。本サブセッションでは，電力貯蔵を指向した蓄電池について幅広く議論します。

D. 人類が生きていくためには水，空気に代表される環境の維持と，その活動の源となるエネルギーが必要です。有限であるエネルギーの効率的な利用は，創エネ，蓄エネと並んで，重要な視点であり，低燃費化，低消費電力化，高断熱化など様々なアプローチが考えられ，低環境負荷技術や環境浄化技術と合わせて発展させる必要があります。本サブセッションでは，エネルギーの高効率利用と環境維持に貢献する化学技術にスポットをあて議論します。

E. 再生可能炭素資源を活用するための有機合成化学：「再生可能炭素資源」，すなわち，回収CO_2及びCO_2を再生可能エネルギーから製造される水素と反応させ得られるCO，MeOHなどのCO_2還元物，さらにはセルロース，リグニン，キトサン，油脂などのバイオマス及びその分解生成物，の特徴を把握し，これらを原料として 効率的に有用化合物の生産に結び付けることは，医薬品，農薬，電子・光学材料などの製造に関わる化学産業にとって今後の重要な課題である。そこで，本テーマに関して講演と議論を行いたい。

T2.　新材料開発最前線

A. プリンテッドエレクトロニクス，B. 自己修復材料，C. 軽量化材料，D. 連携が支えるバイオミメティクス

［オーガナイザー］：鎌田俊英（産総研），原田　明（阪大院理・教授），松崎亮介（東理大理工・講師），下村政嗣（東北大多元研）

［趣旨］：現在，注目を集めている技術としては省エネ技術や省資源技術があります。関連する新材料として「A：プリンテッドエレクトロニクス」，「B：自己修復材料」，「C：軽量化材料」，「D：連携が支えるバイオミメティクス」の最前線を紹介する四つのサブセッションを設定しました。周辺領域を包含する広範な内容について分野を超えた活発な議論を期待しています。

A. プリンテッドエレクトロニクス：プリンテッドエレクトロニクスは，高速高生産性などを特徴とした製造技術としての魅力とともに，フレキシブルデバイスなどの新市場開拓に大きな期待が寄せられ，今日多様な技術展開が図られるようになってきています。本サブセッションでは，新デバイス開拓とその材料例，先進プロセスに着目した最前線技術を取り上げ，材料，デバイス，さらにはそれらを必要とするサービスシステムへの連携を広げる議論を進めていきます。

B. 自己修復材料：ポリマーなどの材料が損傷を受けた場合，生物のように自己修復することができれば，常に新しい状態で使い続けることができ，資源，環境，エネルギー問題などを解決できる。未来の材料として必要な機能である。

C. 軽量化材料：省資源及び省エネ材料としては，自動車や航空機などの移動体用に期待されるものとして，軽量化用構造材料がある。出口を見据えた理論と応用の最先端の状況を紹介する。

D. 連携が支えるバイオミメティクス：バイオミメティクスの現代的な意義は，生物の階層的な構造による機能発現がもたらすパラダイムシフトと，「自己組織化」を含むモノつくりプロセスの革新による持続可能性への寄与です。そして現代的な課題は，分子～材料～機械へとナノからマクロにいたる階層を繋ぐことであり，そこに世界の新潮流があります。バイオミメティクスに軸足を置きながら，有機と無機の融合，ナノテクノロジーと生物学の連携，材料科学と機械工学の融合，情報科学や環境科学からの視点などに着目し，異分野連携，産学連携まで議論の輪を広げていきます。

T3.　バイオ技術の新展開

A. 生物機能の新展開，B. 脳科学の新展開，C. バイオベンチャーの新展開

［オーガナイザー］：宮本憲二（慶大理工・准教授），牛場潤一（慶大理工・准教授），菅　裕明（東大院理・教授）

［趣旨］：21世紀は，ヒトゲノムが解明され，まさにポストゲノム時代に突入し，生物が有する生体機能の研究が一気に進み，バイオ技術は医療・ヘルスケア分野にとどまらず，食糧・水，資源・環境，エネルギー等の課題解決に向け，広範囲な分野での活用が期待されています。一方，技術革新は，国境と時間を越え，産官学連携，産産連携等を含め

たオープンイノベーションの風を受け，異分野との融合によって，さらに革新的なバイオ技術の創生がなされるとともに，ビジネスとしての実用化，新たな産業の創生が加速されています。今回は，その中から，バイオプラスチックとバイオ由来の材料，また，脳の機能をトピックスとして取り上げ，これらに対する革新的バイオ技術のアプローチ（基礎から応用，ビジネス展開）を中心にディスカッションができる場を設けました。さらには，旬なバイオベンチャーから具体的な技術戦略，ビジネス戦略等について講演いただくとともに，ベンチャーファンドからの講演者も招き，ベンチャー起業のノウハウについて話題提供していただきます。

A. 生物機能の新展開：生物機能は，環境調和型物質生産，医薬・農薬の製造や作物の栽培等，様々な用途に利用可能な重要な技術です。本サブセッションでは，近年ますます注目を浴びているバイオプラスチックやバイオ由来の材料に焦点を当て，その動向や微生物を用いた生合成や分解技術を中心に話題を提供します。

B. 脳科学の新展開：脳は，約千億の神経細胞がつながった複雑なネットワークであり，「人類最後のフロンティア」とも言われています。本サブセッションでは，ポストゲノム時代の，残された未知の領域のひとつである脳機能に焦点を当て，ビジネス展開も念頭に，様々な切り口から化学がどこまで脳の不思議に迫れるかを中心に話題を提供します。

C. バイオベンチャーの新展開：バイオベンチャーは，オープンイノベーションの風を受け，まさに成長期に入ろうとしています。本サブセッションでは，産業界に大きなインパクトを与え，新たな産業創出と日本経済発展の原動力となる大学発ベンチャー，スピンオフベンチャーに焦点を当て，その技術戦略，ビジネス戦略等を中心に話題を提供します。

ATP ポスター

3月27日に実施を予定しています。**3.2　アドバンスト・テクノロジー・プログラム（ATP）**に記載したP1～P7の産業適用分野で発表を募集します。優秀講演賞（産業）の審査をATPポスター発表で実施します。学官から産業界へのアピールの場，産業界からの情報発信の場として有効です。審査を申請した発表は産業界の視点で審査し，優れた発表には優秀講演賞（産業）を授与します。産学官の多くの皆様の応募，参加をお待ちします。

博士セミナー

科学技術で生き残りを図る日本においては，イノベーションの担い手として，産業界において高度な知識と研究開発力を持った博士人材が必要であり，期待もされています。日本化学会では，平成19年度より「博士セミナー」を開催して博士後期課程在学生に産業界をもっと知ってもらう試みを行ってきました。このような試み，及び研究のグローバル化が進展する中で企業による化学系の博士採用数は増えています。本セミナーでは，企業が博士に期待する熱いメッセージとともに，企業で活躍する多様な博士人材のメッセージを発信することで，皆様の将来のキャリアとしての博士を考える一助にするとともに，大学での勉学，研究の指針の参考になればと考えています。博士後期課程在学生，進学希望の博士前期課程在学生，学部学生，ポスドク研究者をはじめ，関心をお持ちの企業関係者の皆様の参加をお待ちします。（3月29日実施予定）

上記のほか，ATP交流会（3月27日実施）も予定しています。

9.2 アジア国際シンポジウム

学術研究活性化委員会では，春季年会の活性化を目的として，我が国とアジア諸国の産学の若手研究者によるアジア国際シンポジウムを開催します。開催予定のディビジョンは下記のとおりです。

1. 光化学
2. 理論化学・情報化学・計算化学
3. 無機化学/錯体化学・有機金属化学
4. 分析化学
5. ナノテク・材料化学
6. コロイド・界面化学
7. 有機結晶

第94春季年会（2014）「優秀講演賞（産業）」“CSJ Presentation Award 2014 for Industries”のご案内

産学交流委員会 委員長　千葉泰久

日本化学会産学交流委員会では，平成20年度から「優秀講演賞（産業）」の表彰を行っていますが，来る平成26年3月27日(木)～30日(月)，名古屋大学東山キャンパスで開催される標記年会においては，昨季に大幅に刷新した下記要領で審査・選考を行い，優れた講演者に対して「優秀講演賞（産業）」を授与します。

産学官の研究成果を，産業界の審査委員がATPポスター発表での質疑応答と意見交換を通して，産業界の視点で審査します。是非多くの皆様の参加をお待ちしています。奮ってご応募下さい。

選考対象者：

産学官を問わず平成26年4月1日時点で満40歳に達していない正会員及び学生会員で，講演申込時に審査希望を申請した者。過去の受賞経験者は，研究内容が全く異なる場合，あるいは研究開発ステージが上がるなど研究の進展が顕著な場合に限り対象とします。

審査形式：

ATP ポスターの発表で審査します。

審査分野：

アカデミック・プログラム（AP）の全部門を対象とし，下記７つの産業適用分野を審査分野として審査します。アカデミック・プログラム（AP）の口頭 A 講演や口頭 B 講演と同様の内容で，産業適用分野を指定して ATP ポスターに申し込むことも可能です。講演申込時に審査分野を明記して，審査希望を申請して下さい。

P1. エネルギー（例；創エネ，蓄エネ，送エネ，節エネ，等々）
P2. 資源・環境・GSC（例；炭素資源，レアメタル，化学プロセス，触媒，等々）
P3. 食糧・水（例；バイオ品種改良，農薬，肥料，水処理，等々）
P4. 運輸・住宅（例；自動車素材，航空用素材，建築素材，構造材，等々）
P5. 通信・エレクトロニクス（例；プリンテッドエレクトロニクス，有機エレクトロニクス，等々）
P6. 医療・ヘルスケア（例；創薬，診断薬，人工臓器，再生医療，等々）
P7. 生活資材（例；繊維，紙，包装材，トイレタリー，化粧品，等々）

選考方法：

産学交流委員会及び傘下の各小委員会委員，並びに日本化学会フェローなどのほか，委員より推薦され委嘱された複数の審査委員が，審査申請された ATP ポスター発表を選考基準に基づいて審査し，会期後に ATP 企画小委員会で選考を行い，産学交流委員会で決定します。

選考基準：

産業に対する寄与が期待される基礎的または応用的な概念，アイディア，実験手法，実験結果などについての発表であり，発表者の研究に対する主体性や貢献度が優れ，かつ今後の研究活動の一層の発展の可能性を有すると期待されるもの。

授与件数：

20 件に 1 件の割合で授与します。

賞状の授与：

日本化学会会長名の賞状を授与します。年会終了後，日本化学会から所属長を経由して本人に賞状を送付し，後日，「化学と工業」誌に氏名，所属，演題を掲載します。

本件に関する問合先：

日本化学会　企画部　河瀬
電話：03-3292-6163　E-mail: sangaku@chemistry.or.jp

「日本化学会秋季事業—第3回CSJ化学フェスタ2013」当日登録のご案内

化学フェスタ実行委員会

主　催	日本化学会
後　援	文部科学省・経済産業省・国立科学博物館・科学技術振興機構・日本化学工業協会・新化学技術推進協会・産業技術総合研究所・理化学研究所・日本原子力研究開発機・物質･材料研究機構
会　期	2013 年 10 月 21 日（月）～ 23 日（水）　3 日間
会　場	タワーホール船堀（東京都江戸川区船堀 4-1-1）
実行委員長	多田啓司（旭化成），加藤隆史（東大院工）
問合先	日本化学会　企画部　河瀬・美園 電話：03-3292-6163　E-mail: festa@chemistry.or.jp　URL: http://www.csj.jp/festa/

これまで本誌会告欄及びウェブページ等でご案内してきましたとおり，標記イベントを開催します。本号では，当日参加登録についてご案内します。CSJ 化学フェスタ 2013 のプログラムやスケジュールにつきましては，ウェブサイトにてご確認下さい。

また同会場にて，（一社）日本化学工業協会，（独）科学技術振興機構，（独）理化学研究所，（独）産業技術総合研究所，（公社）新化学技術推進協会，（独）日本原子力研究開発機構，それぞれによるコラボレーション企画が併催されますので，こちらも併せてご案内します。

会員の皆様におかれましては，奮ってご参加下さいますようお願いします。